

# たずねてみませんか、 伊達政宗ゆかりの地!

本丸・仙台城をはじめ、城下町仙台市内には伊達家ゆかりの施設・史跡が多数。  
神出鬼没な「伊達武将隊」が登場するかもしれない、施設・史跡をチェックしよう!



## 仙台城跡

400年以上前、伊達政宗が天然の要害である青葉山に築いた仙台城。石垣と復興された隅櫓が現代に歴史を伝えている。また、仙台城の発掘調査や石垣修復工事について分かりやすく紹介している「仙台城見聞館」や、仙台城をCGで再現した「CGシアター」と政宗の生涯や仙台藩について紹介した「青葉城資料展示館」など、仙台城と伊達政宗を知ることができる資料館を併設している。

### 青葉城資料展示館

TEL022-227-7077

入館料/一般大学生700円、高校生500円、小学生300円  
休館日/年中無休(ただし、年に数日、館の施設・設備等のメンテナンスのため休館いたします。)  
開館時間/9:00~17:00(受付終了16:30)(4/1から11/3、9:00~16:00(受付終了15:30)(11/4~3/31))



## 瑞鳳殿

伊達政宗の遺言により建造された伊達政宗の廟所。戦災で焼失したが、その後再建された。桃山様式の絢爛たる美しさに圧倒される。  
TEL022-262-6250



## 仙台市博物館

伊達家ゆかりの文化財や支倉常長関連資料など国宝、重要文化財を含む9万点あまりの資料を収蔵している。  
TEL022-225-3074

開館時間/9:00~16:30

(12/1~1/31は16:00まで)

観覧料/一般大学生550円、高校生400円、小中学生200円

休館日/12月31日~1月1日

開館時間/9:00~16:45(入館は16:15まで)

入館料/一般大学生400円、高校生200円、小中学生100円

休館日/月曜日、祝日  
振替休日の翌日、12月28日~1月4日



## 国宝大崎八幡宮

絢爛豪華な装飾が施された権現造りの社殿は桃山様式の貴重な建造物であり、社殿は国宝指定となっている。  
TEL022-234-3606



## 陸奥国分寺薬師堂

奈良時代、聖武天皇が全国に建立した国分寺の中でも最も北にある寺で、伊達政宗公により慶長12年に再建された陸奥国分寺薬師堂・仁王門などがある。  
TEL022-291-2840

伊達政宗ゆかりの地を巡るには「る〜ぶる仙台」が便利です

伊達武将隊の最新情報更新中!

<http://www.datebusy.jp/>

お問い合わせ先

・仙台市経済局観光交流課



TEL022-214-8259

伊達武将隊

ともに、前へ  
仙台・宮城

# 伊達武将隊

奥州・仙台 おもてなし集団



仙台城にておもてなし中

伊達政宗 / 漆黒の政宗

伊達成実 / 片倉小十郎 / 茂庭綱元 / 支倉常長

黒腰中組 隠密 空 / 足軽組頭 杜野与六 / 足軽 田七 / 黒腰中組 くのー海・畑

# 伊達武将隊

奥州・仙台 おもてなし集団

仙台城で待っておるぞ!

仙台藩初代藩主 独眼竜  
**伊達政宗**

●●●●●  
永禄十年(1567年)生まれ  
幼名/梵天丸  
独眼竜の異名を持つ仙台藩初代藩主。戦国乱世を大胆不敵かつ華麗に生き抜いた稀代の英雄。奇抜な策略と武功で数々の戦地を切り抜け、豊臣秀吉、徳川家康などの天下人をも魅了した。当時の武将としては珍しい趣味である料理をはじめ、釣り、鷹狩、香道と幅広い好奇心と教養にあふれていた。物産豪華かつ合理的な好みは「伊達者」の語源ともいわれている。

現代生まれし政宗の分身  
**漆黒の政宗**

●●●●●  
天下泰平、民の安寧を願う伊達政宗の「悪い心持だも一人の政宗。無用な戦いを好まず。情報収集や分析、奇抜なアイデアを駆使し、当世流のやり方で平和に導くのが使命。最新の仙台・宮城の観光、温泉、名物、レジャーに至るまで、様々な情報を人々に提供する。

伊達三傑  
「武の武将」

伊達家嫡二の猛将  
**伊達成実**

伊達三傑  
「知の武将」

政宗の参謀役、白石城主  
**片倉小十郎**

伊達三傑  
「吏の武将」

仙台城下の基礎を築いた  
**茂庭綱元**

遣欧使節としてヨーロッパに渡った伊達男  
**支倉常長**

●●●●●  
仙台藩一門第二席・巨理伊達家の初代当主。伊達政宗より一歳年下の従兄弟であり、兄弟のように育った竹馬の友でもあった。「決して後ろに退かぬ」という伊達者の心意気を表した百足の前立てを宛に掲げ、戦場では幾度となく伊達の先陣を務めた「武の武将」である。

●●●●●  
伊達政宗が幼き頃より侍役を、そして長きにわたって伊達の軍師を務めた「智の武将」。智略に優れ、政宗の命運を左右する合戦には必ず小十郎の姿ありといわれた。一担一城令が囃かれる中、特例として残された白石城の城主となり白石の地を治めた。

●●●●●  
父・鬼庭左月とともに伊達家に仕え、政宗の初陣では後見も務めた。仙台城築城の際から留守居役に任ぜられ、仙台藩の経営や治世、城下の設計に尽力した城吏の武将。天下人・豊臣秀吉が数々の策を練り、藤元の引き抜きを回ったが断り続けたという逸話を持つ。

●●●●●  
日本から世界へ目を向けた伊達政宗の命を受け、慶長遣欧使節団の副使・日本人のリーダーとして、帆船サンファンパウティスタ号で製石巻・月の浦を出発し、1615年にローマに渡った初の日本人。多くの西洋文化を持ち帰り、伊達文化に与えた影響は計り知れない。

伊達武将隊を支える  
「足軽組」と  
「黒脛巾組」

足軽組組頭 **杜野喜六**

●●●●●  
多くの戦いに参加し、その働きが認められ組頭として姓を名乗ることを許された。ひょうきんもので人望が厚い。

足軽 **田七**

●●●●●  
江戸の米市場をほぼ独占した仙台・宮城の米づくりのため、良い土壌づくりと田んぼづくり尽力した足軽。

黒脛巾組くさの海

●●●●●  
変化に富んだ仙台・宮城の海で、釣りをしながら鍛錬を積み、戦場では即戦力としてその力を買われたくの一。

黒脛巾組くさの畑

●●●●●  
緑豊かな土壌を耕し、野菜や果物など様々な植物の育成に力を注ぎ、山野を巡りながら情報収集をしたくの一。

黒脛巾組藤寄空

●●●●●  
支倉常長とともに西洋に渡った副使。日本に戻ってからは諸国を旅行し様々な隠密活動を行っていた。

## 伊達武将隊

四百年の時空を越え、いま仙台の醍醐味を人々に伝える。「伊達武将隊」が現代に見参!

慶長六年(1601年)奥州青葉ヶ崎に、日本一の都を造り上げる夢をかなえるべく、千代を仙臺と改め、奥州一の城を築き城下町を創った伊達政宗が、四百年の時空を超え、平成の世の社都「仙台」の地に再び舞い降りた。「伊達政宗」が率いるのは、政宗の意を受け現代に甦った「漆黒の政宗」、そして政宗を支えた伊達成実、片倉小十郎、茂庭綱元の伊達三傑、欧州に渡った支倉常長など強い絆で結ばれた十一人の武将と家臣たち。その名は「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」。

伊達武将隊の使命は、仙台開府から脈々と受け継がれている、伊達の美学。こだわり、そして四百年の生きざまが凝縮された伊達文化の魅力と伊達の魂を、再び全国に伝えること。伊達武将隊いざ出陣!

